

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科目区分	その他	授業の方法	講義演習
科目名	地域在宅看護概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	1学年	学期及び曜時限	後期	教室名	本館2階
担当教員	福崎 友和	実務経験と その関連資格	実務経験:地域医療連携室、医療相談室、地域包括支援センター、訪問看護 資格:看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員		

《科目目標》

1. 地域・在宅看護の変遷とその社会的背景が理解できる。
2. 地域・在宅看護の対象と地域での療養を支える制度が理解できる。
3. 地域包括ケアシステムの概要と看護の役割が理解できる。

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】グループワークへの参加状況・課題レポート50%、終講試験50%
 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版
 ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障
 公衆衛生がみえる メディックメディア メディカ出版

《授業外における学習方法》

日本の人口構造・疾病構造の変化、看護師の倫理綱領、倫理の原則、ライフサイクルについて復習しておく。
 また、自分の生活する地域の人口動態や介護保険制度等を検索し具体的な学びにつなげる。
 毎回の学習については授業以外での準備学習の具体的な内容を参照する。

《履修に当たっての留意点》

社会学で学習した地域社会の変動とコミュニティの問題、看護学概論で学習した人口構造・疾病構造の変化、看護師の倫理綱領、倫理の原則等と関連づけて地域・在宅看護が推奨される社会的背景、療養者とその家族を支援するうえで必要な基本的理念や倫理的配慮について理解する。また、看護の対象を地域で生活する生活者の視点でとらえ、地域包括ケアシステムの中での看護の役割を探求していく。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	地域・在宅看護について理解する	テキスト 配布資料	日本では高齢化が進んでいることを知るために、「高齢化」や「平均寿命」について、テキストやインターネットで簡単に調べてみましょう。授業では「地域包括ケア」という言葉を学びます。「医療・介護・予防・生活支援・住まい」といった、地域で高齢の方を支える仕組みがあることを、知っておいてください。また、自分の住んでいる地域で「お年寄りをよく見かける場所」や「地域で支え合っていると思うこと」を1つ思い出して、ノートにメモしておきましょう。
	各コマにおける授業予定	1) 地域・在宅看護の背景 2) 地域・在宅看護の基盤 3) 地域療養を支える在宅看護の役割 4) 地域包括ケアシステムとは(背景、機能、自助・互助・共助・公助)		
第2回	授業を通じての到達目標	在宅療養者と家族の支援について理解できる	テキスト 配布資料	授業では在宅で療養する人と家族の支援について学びます。授業で扱う事例を配布されたら目を通して、「家族が支えることの大変さ」や「看護師が関われそうなこと」を1つ考えてノートに書いておきましょう。家での介護や療養について、自分の周りにそうした方がいないか思い出しておくのもおすすめです。
	各コマにおける授業予定	1) 地域・在宅看護の対象者 2) 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 3) 在宅療養の場における家族の捉え方 4) 在宅療養者の家族への看護		
第3回	授業を通じての到達目標	地域療養を支える制度とその活用(2)	テキスト 配布資料	障がいや難病のある人、生活に困っている人を支える制度について学びます。授業で紹介される制度(障害者総合支援法・難病法・生活保護など)を聞いたことがあるか確認し、誰がどんな時に使えるのかをテキストやネットで調べてみましょう。
	各コマにおける授業予定	1) 障がい者・難病に関する法制度 2) 子どもの在宅療養を支える制度 3) 生活保護法 4) 権利擁護・虐待防止に関連する法律		
第4回	授業を通じての到達目標	地域療養を支える制度とその活用(1)	テキスト 配布資料	在宅での生活を支える制度について学びます。介護保険制度と医療保険制度の違いや、どんな人が使えるのかをテキストで簡単に確認しておきましょう。「介護保険は何歳から使える?」「医療保険と何が違う?」など、素朴な疑問でも良いです。
	各コマにおける授業予定	1) 介護保険制度 2) 医療保険制度・後期高齢者医療制度		
第5回	授業を通じての到達目標	療養の場の多様性とそこで療養する対象の特徴を理解する	テキスト 配布資料	授業では、施設や自宅など「療養の場のちがい」について学びます。自分だったらどこで療養したいか、または家族だったらどこが安心か、想像してノートに1つ書いておきましょう。授業で扱う事例にも注目し、どこで生活を続けるのが良いかを考える視点を持って参加してください。
	各コマにおける授業予定	①在宅②特定施設③介護老人福祉施設④介護老人保健施設⑤介護療養型医療施設⑥介護医療院⑦小規模多機能型⑦通所介護・リハビリ		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	訪問看護制度と訪問看護ステーションの仕組みが理解できる	テキスト 配布資料	授業では「訪問看護」の仕組みや看護師の役割について学びます。「訪問看護ってどんなイメージ？」と聞かれたとき、自分なりに答えられるように考えてみましょう。また、自分や家族が病気やけがで通院できないとしたら、「どんな看護を受けたいか」を自由に想像して、1つノートにメモしておいてください。
		各コマにおける授業予定	1) 訪問看護制度のあゆみと特徴 2) 訪問看護ステーションの仕組み・サービス内容 3) 訪問看護と介護保険制度・医療保険制度の関係		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域での生活を支える看護の視点について理解できる	テキスト 配布資料	今までの授業で扱った事例を振り返り、「この人を地域で支えたら、自分は何ができるだろうか？」と考えてください。また、地域包括ケアという言葉聞いたときに、自分の中にどんなイメージがあるか、簡単にノートにまとめて下さい。
		各コマにおける授業予定	事例を通して地域の中で暮らす人を看護の視点で考える		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域・在宅看護について振り返る		※この回は終講試験を行います。授業内での振り返り内容や事例をもとに、看護の視点を思い出して試験に臨んでください。
		各コマにおける授業予定	終講試験		